令和５年 12 月１日号

島野伝太郎一家の まちなみ通信 No.55

～胡粉～

伝太郎：急に寒くなってきましたね。木々もようやく色づいてきて、千畳閣で金色の銀杏が床に映り込む様子は本当にきれいですね。

建吉：ほうじゃのぅ。千畳閣だけじゃのうて秋の宮島には本当にきれいなところがたくさんあるのぅ。そういやぁ、この前、伝建の工事を行う工務店が集まっとる「工務店の会」が研修をしたんじゃ。今回の研修じゃあ、弁柄や胡粉についてのことを勉強したんじゃ。

木口に塗られた胡粉（大聖院）

伝太郎：胡粉ってどんなものですか。

建吉：胡粉はのぅ。昔から日本で使われとる白い塗料なんじゃ。宮島じゃあ社寺の軒先の木口なんかが白う塗られとるじゃろう。あの白い部分の塗装に使われる伝統的な塗料が胡粉なんじゃ。

伝太郎：どうして木口に胡粉を塗るんですか？

建吉：胡粉を塗ることで、木口から腐ってしまうのを防ぐんじゃ。それにのぅ、木口なんかが白いことで建物の印象が引き締まって見えるんじゃ。

伝太郎：へぇ、そうなんですね。この胡粉って何からできてるんですか？

建吉：イタボガキっちゅう貝の殻を乾燥して風化させたものを砕いて使うんじゃ。宮島で春に行われる雛めぐりのお雛さんのお顔の白い色も、伝統的な工法でつくられとるもんは胡粉が何層にも塗り重ねられとるんじゃ。お雛さんだけじゃあのうて、日本画にも使われとって、胡粉は日本の中に深こう根ざしとるもんなんじゃ。胡粉を使かう時にゃあ、このイタボガキの殻を砕いた粉に膠を混ぜて使うんじゃ。

膠（にかわ）

伝太郎：膠ってどんなものですか？

建吉：膠っちゅうのは、牛脂でできとって、牛の皮を煮て抽出した油を固めて作ったもんじゃ。これを湯で溶かして使うんじゃ。まず、胡粉を乳鉢で擦りつぶして、湯で溶かした膠を少しずつ混ぜてくんじゃ。それをダンゴに固めて、100 回くらい叩きつけて馴染ませるんじゃ。こうやってよう馴染ませたら、少しずつ溶かした膠で薄めていくんじゃ。これを木材に塗るんじゃが、塗ったらすぐに灰汁がでて黒うなってしまうんじゃ。この灰汁じゃが、古い材ほどよけえ出るけぇ、もっと黒うなるんじゃ。じゃけぇ、この胡粉塗りは、文化財以外じゃあ手間がかかるけぇ最近はあんまりせんのんじゃ。じゃが、胡粉は水性塗料じゃけぇ、木材の水分が灰汁になって出るんじゃが、油性の塗料じゃったら、木材の中から出てくる空気が抜けんけぇ膜をつくって膨れてしもうたりするんじゃ。

薄めた胡粉

伝太郎：手間も時間もかかるけど、古いものの修理には必要なんですね。

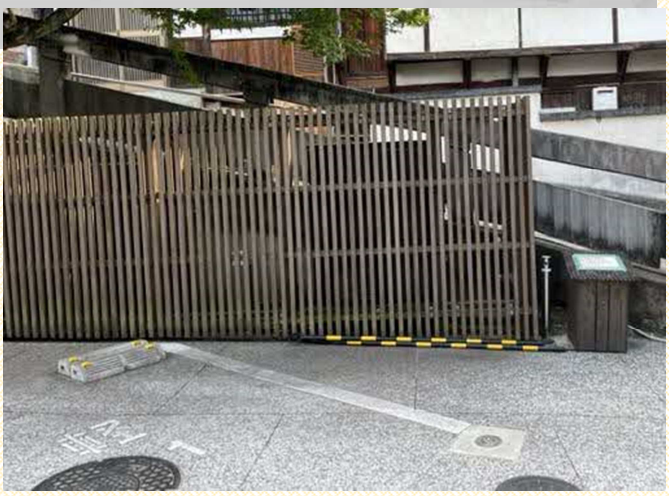
胡粉を塗る様子（1 回目）

建吉：ほうじゃ。胡粉は１回塗るだけじゃあ木目が透けてしまうけぇ、均一に白うするにゃあ５～６回は塗らんといけんのんじゃ。古材じゃったらもっと塗る回数も必要になるんじゃ。それにのぅ、雨の日は作業ができんし、11～３月は膠が冷えて固まってしまうけぇ作業ができんのんじゃ。じゃが、胡粉の白の独特の透けるようなきれいな色あいは、ペンキとかじゃあ出せんのんじゃ。伝建の工事じゃあ、今の家を建てるのとは違う材料や技術が必要じゃけぇ、伝建の工事に関わる人はいろんな技術や知識が必要なんじゃ。胡粉もじゃが、いろんな技術や知識があって初めて伝建の工事はできるんじゃ。

伝太郎：じゃあ、これからのまちなみを整えていくためにも工務店の会の皆さんにはより一層頑張っていただかないといけませんね。

※胡粉の取り扱い等は（株）島津漆彩色工房にご協力いただきました。

今昔写真を見比べて



上の写真は、昭和 47 年３月に宮島町役場で行われた狂犬病予防接種の様子です。
この写真では写っていませんが、左奥には旧宮島町役場がありました。この場所は、江戸時代の寛永期には宮島奉行所が設置され、その後宮島町役場となりました。現在は、建物は建て替え、etto 宮島交流館となっていますが、写真の後ろに写る坂道は今もその姿を残しています。

みやじまの町家に親しむ会からのお知らせ

伝統的建造物であることを示す「表示板」が設置されている建物は伝統的建造物の特定物件です。表示板が設置されている建造物にお住まいの方は、より伝建のことを知ることができる「みやじまの町家に親しむ会」に参加してみませんか。身近な建物のこと、まちの歴史などを知るためにも、興味をお持ちの方は会に繋ぎますのでまず市役所に電話でご連絡ください。

町家に親しむ会
開催日：毎月第２木曜日
場所：etto 宮島交流館など

お問い合わせ　宮島企画調整課宮島まちづくり推進係
TEL(0829)30-9119

まちなみ通信 No.55（令和５年 12 月１日）発行
廿日市市経営企画部宮島企画調整課宮島まちづくり推進係　TEL(0829)30-9119　FAX(0829)32-1059